

三條南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club



2012.11.12

No.2057

No.15



出席率 会員48名中40名

先々週の出席率 93.62%

ゲスト 地区ロータリー財団副委員長 野沢正信様

先週のメークアップ 11/7 三條RCへ

丸山徹夫君 松崎孝史君 谷 晴夫君
野島廣一郎君 佐々木常行君

奉仕を通じて平和を



会長挨拶

三條南ロータリークラブ 会長

坂井範夫

皆さん、こんにちは。ご挨拶申し上げます。

本日は、11月の「ロータリー財団月間」に因みまして、新潟北ロータリークラブから地区ロータリー財団副委員長の野沢様にお越しいただきました。

8月25日に「第1回ロータリー財団セミナー」が長岡で開催され、私も渡邊光郎財団委員長とともに出席し、“未来の夢計画”云々の研修を受けてまいりましたが、なかなか理解し難く、皆様に上手くお伝えする自信がないため、今回、野沢様に卓話をお願いした次第です。野沢様、お忙しい中や難うございます。よろしくお願い申し上げます。

さて、9日 金曜日、三條の真ん中を振興しようと、三條商工会議所青年部主催で“さんじょうバル街”というイベントが開催されました。本寺小路周辺を、マップとチケットを片手に散策しながらはしご酒を楽しむというイベントです。私も‘三條の真ん中’にはいろいろとお世話になっていますので出かけて行きましたが、3,500円で5軒回れるとあって、若い人から年配者まで多くの人達で夜遅くまで賑わっておりました。また夫婦連れが多かったように感じました。普段ですとなかなか入れないようなお店にも気軽に立ち寄り、楽しむことができるのがこのイベントの最大のポイントだと思います。接待するお店の方は大変だったと思いますが、それが振興繋がって行くのではないかと思います。

人間も動物の内ですから、人の集まる所には自然とまた人が寄って行くという習性があり、賑やかな町には自然と足が向くようになるのではないのでしょうか。今はないようですが、昔から“さくら”という手を使ってお客を集めていたのはそんな習性からなのではないのでしょうか。

これからもいろいろな試みから、‘三條の真ん中’が以前にもまして賑わうことを願っております。

四つのテスト

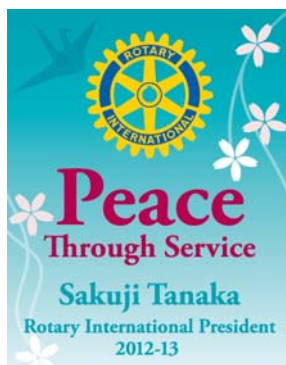
一言行はこれに照らしてから—

I 真実かどうか

II みんなに公平か

III 好意と友情を深めるか

IV みんなのためになるか どうか



国際ロータリー会長 田中作次 [埼玉、八潮]

第2560地区ガバナー 鈴木重彦 [長岡]

第4分区ガバナー補佐 杉山太三郎 [巻]

会長 坂井範夫

幹事 丸山征夫

S A A 永桶俊一

事務局 〒955-8666 三條市旭町2-5-10

三條信用金庫 本店内

TEL 0256-35-3477 FAX 0256-32-7095

E-mail info@sanjo-minami.jp

URL <http://www.sanjo-minami.jp>



丸山 征夫 幹事

●鈴木ガバナー事務所より

2020 東京オリンピック・パラリンピック招致への協力について

R I 第 2580 地区 2011～12 年度ガバナー、東京オリンピック・パラリンピック招致委員会副理事長 水野正人氏より招致活動への協力要請があり、全国のロータリアンへ“リーフレット及びピンバッジ”が送付され、皆様に配布させていただきました。
招致活動へのご理解、ご協力をお願いいたします。

●柏崎ロータリークラブより 「創立 60 周年記念式典」出席お礼

※ 10 月 28 日（日） 馬場パストガバナー、坂井会長、丸山幹事出席

●国際基督教大学(ICU)より「東ヶ崎潔記念ダイアログハウス募金」に際しての感謝状

日本人最初の R I 会長、I C U 初代理事長 東ヶ崎潔氏の遺志を継ぐ「世界平和の建設を目指すダイアログ（対話）の場：東ヶ崎潔記念ダイアログハウス」建設費用募金協力に対しての感謝状が贈られました。

・・・大溪年度より 3 年計画、大溪年度 4 万、鈴木年度 3 万、今年度 3 万の計 10 万円を寄附。



ニコニコボックス

NIKO-NIKO BOX

～ 11 月 12 日 25,000 円
今年度累計 357,000

新潟北 RC
野崎 様

卓話にお呼びいただきありがとうございます

坂井 君

地区ロータリー財団副委員長の野沢様、卓話有難うございます。よろしくお願いします。

丸山(征) 君

地区ロータリー財団副委員長 野沢正信様、ようこそ三条南へ！

渡邊(光) 君

野沢副委員長、ご苦勞様です。よろしくお願いします。

馬場(信) 君

久しぶりに野沢正信さんにお会いしました。本日の講師をよろしくお願いします。

鈴木(囿) 君

本日卓話の地区財団副委員長 野沢正信様、ご苦勞様です。

野崎 君

野沢さん、本日は卓話、よろしくお願いいたします。

佐藤(秀) 君

BOXに協力します。結婚記念の花、ありがとうございました。

野中 君

今日は30回目の結婚記念日です。
あ～あ！

田中 君

先週は大勢の方々に小規模工場を見ていただきました。ありがとうございました。余りに小規模で、ご参考にならなかったのではと心配しております。

西巻 君

11月7日の金山神社宵宮祭は雨風の大荒れでしたが、翌8日は雨も上がり、金山神社大祭並びに三条産業振興祈願祭、滞りなく無事に終わりました。馬場信彦さん、葦澤さん、野崎さん、馬場眞樹さん、ありがとうございました。

吉井 君

週報に「4RC 三陸報告」を載せました。クラブから10名の参加と多額の支援金をいただき、幹事の北クラブのガンバリもあって、おおむね成功だったと思います。改めてご協力に感謝いたします。

池田君、石山君、草野君、滝口君、銅冶君、
野水君、馬場(一)君

BOXに協力いたします。

熊倉 君

皆様、BOX協力ありがとうございました。

Speech



ロータリー財団月間



卓話

「『未来の夢計画』新補助金制度への移行について」

第2560地区ロータリー財団副委員長
里野沢 正信 様（新潟北RC）

未来の夢計画の誕生

ロータリー財団が 2017 年創立 100 周年を迎えることを踏まえ、管理委員会は、財団が奉仕の第二世紀に移行するための計画「未来の夢計画（Future Vision Plan）」を立てました。

ロータリー財団は、創立以来、プログラムにほとんど変更を加えることがありませんでした。そこで、新しい計画を立てるに当たり、管理委員会は 1 万人近くのロータリアンを対象とするアンケート調査、フォーカスグループ、意見交換会などを通じて未来の夢計画を立案することにしました。

この計画では、財団の使命を新たにするとともに、ロータリアンが多岐にわたるプロジェクトを実施することで多大な影響をもたらす、持続可能な成果を生むことができるよう、一層効果的で効率の良い支援方法を編み出しました。



未来の夢計画の新補助金構成は、財団への寄付を最大限に生かすことを目指しています。これにより、クラブと地区は、長きにわたって大きな影響を与えていくような、柔軟性あるプロジェクトに資金を活かすことができます。

何故、未来の夢計画なのか 管理委員会がロータリー財団 100 周年に向けて準備を行う中で、サービスの提供方法に注目する必要があることが明らかになりました。財団は大きな発展を遂げてきました。特に人道的分野における発展には目覚ましいものがあります。1965 年に開始されたマッチング・グラントは、最初の 35 年間（1965～2000 年）に 1 万件が授与されましたが、その後僅か 4 年（2000～04 年）の間に次の 1 万件、また、その後の 4 年間（2004～08 年）でさらに 1 万件のマッチング・グラントが授与されたのです。ロータリー財団の成功が、いわばあだになっちゃったのです。

エバンストン本部の職員は、マッチング・グラントの書類の山に埋もれる毎日でした。これを知った管理委員会は、慈善事業分野において財団が時代に即した存在であり続け、進化を遂げる組織の顧客であるロータリアンのニーズに応える時が来たと感じました。

管理委員会と理事会は、大きな成果と長期的な持続が望めるプロジェクトを目指し、財団プログラムを出来る限り簡素化するための対策を講じる必要があると感じました。そして 2005 年 2 月、管理委員会は、未来の長期計画となる「ロータリー財団の未来の夢計画」を開始したのです。

2010 年 7 月からは世界 531 地区の内 100 地区が試験段階に入り、2013 年 7 月からは世界全地区で新制度へ移行します。

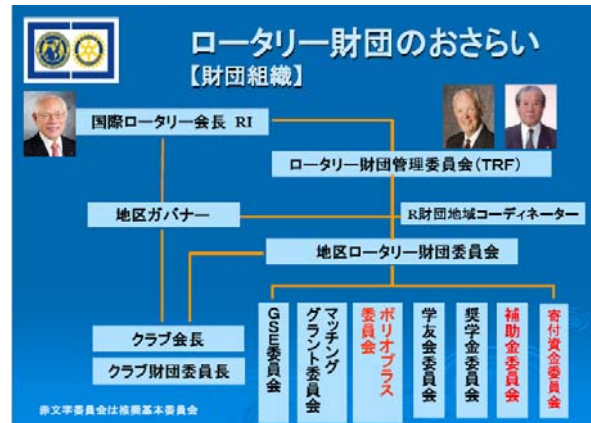
ロータリー財団の標語と使命 初期の段階で、未来の夢委員会から推奨を受けて、管理委員会は、未来の夢計画の標語、使命声明、優先事項を採択しました。これらは理事会並びに 2007 年規定審議会によって承認されたものです。

財団の標語は、「世界でよいことをしよう」、これは 1917 年に元会長のアーチ・クランフが残した有名な言葉です。

財団の使命は、「ロータリアンが、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること」です。

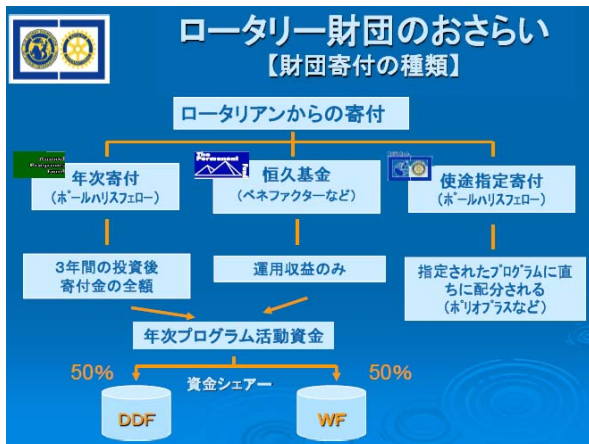
「未来の夢計画」には次のような目的が掲げられています。

1. 財団の使命に沿って、プログラムと運営を簡素化すること
2. ロータリアンが関心を寄せている世界の優先的ニーズに取り組むことによって、最大の成果が期待できるロータリアンの奉仕活動に焦点を絞ること
3. 世界的目標と地元の目標の両方を果すための資金を提供すること
4. 意思決定権をさらに地区とクラブに移行することによって、地区レベルとクラブレベルで、ロータリー財団が自分達のものであるという自覚を高めること
5. ロータリー財団の活動に対する理解を深め、ロータリーの公共イメージを高めること



■ロータリー財団の活動を統括管理しているのが、ロータリー財団管理委員会で 14 名の委員で構成されており通称 TRF と呼ばれています。委員の任期は 4 年で委員長は、RI の会長が任命します。

■現在の委員長はウィルフリッド J. ウィルキンソン氏日本からは、小沢一彦さんが委員に選任されています。



■ポール・ハリス・フェロー (PHF)・・・ロータリー財団に年次寄付または使途指定寄付、あるいはその合計で 1,000 ドル以上寄付した人。

■ベネファクター・・・1,000 ドル以上を恒久基金に無条件寄付した人をベネファクターという。

■ポール・ハリス・ソサエティ (PHS)・・・ロータリー財団に毎年 1,000 ドル以上寄付する人

また、その計画を作成するに当って、「5つの優先事項」を掲げています。この5つの事項を2つに大別してみますと、一つは、「プログラムの簡素化」、もう一つは、「地区の裁量権の拡大」にあるものと思われます。

- ① プログラムと運営の簡素化
- ② 未来の夢計画に沿ったプログラム
- ③ 地区あるいはクラブレベルで「自分たちの財団」と自覚すること
- ④ 目標達成のための十分な資金と人材の提供
- ⑤ 計画を支える効果的な方策の開発

第一の「プログラムの簡素化」とは、6つの重点分野（主として、発展途上国を対象とした人道的プログラム）を設定し、この分野に力点を置くというものです。ワールドファンド（WF）からも資金が拠出されるグローバル補助金（グラント）は最低 3 万ドルという大きな規模のプロジェクトに限定されます。分野と案件数を絞ることにより、持続的な効果のあるプロジェクトを実現しようというものです。

6つの重点分野：

1. 平和と紛争予防／紛争解決
2. 疾病予防と治療
3. 水と衛生
4. 母子の健康
5. 基本的教育と識字率向上
6. 経済と地域社会の発展

資金的に見ても、DDF (District Designated Fund 地区財団活動資金) の50%超をこのプロジェクトにすることが可能なので、財団が最も力を入れることは間違いありません。

第二の、「地区の裁量権の拡大」とは、従来は DDF の最大 20%が地区の裁量権の範囲（地区補助金使用として）であったものが、今後はこの枠が DDF の最大 50%へと増大することになったことです。この資金は地区の設定した口座に送金されてきますので、裁量権の拡大と共に、地区の資金管理に関する責任が増大したと言えます。

クラブや地区サイドから見た場合の大きな変化は、一つには新地区補助金プロジェクトを実施するに当たっては、「計画年度」と「事業年度」という2年がかりの事業になったということです。

新地区補助金プロジェクトは、地元あるいは海外の小規模のニーズに迅速に対応するプロジェクトなので、事業そのものは単年度で終了すると思いますが、新地区補助金の申請が、「一括申請」であり、追加申請が認められない、しかも、申請したプロジェクトに変更がある場合は、説得力のある説明が必要なので、「計画年度」（つまり、「実施年度」の前の年度）中に、事業の内容を相当程度煮詰めておかねばならないことになりました。

もう一つの大きな変化は、グローバル補助金プロジェクトにおいても複数年度にまたがる事業になり得ることです。グローバル補助金は「持続可能性」が要求されますので、元々単年度では終了しない息の長い事業なのですが、「提案書」と「申請書」の二段階の審査になったことも、複数年度にまたがる事業となり得る要因となりました。

この点は、ロータリーの「単年度制」に慣れているクラブや地区にとっては、心してかからなければならない点です。

6つの重点分野の事業は、人道的プログラムに係わる事業が主体ですので、これまで国際親善奨学生やGSEなどの教育的プログラムを中心に事業を進めてきた、多くの日本のロータリアンにとっては、馴染みの少ないものであると思います。言葉の障壁も決して低いものではありません。

しかし、ロータリー財団が掲げた「未来の夢計画」は、「ロータリアンが、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにする」というロータリー財団の使命を元に、「代表的な非政府組織や団体との協力関係（パートナーシップ）を通じて、大きな成果を生む人道的プロジェクトを実施して、ロータリーの公共イメージを高める」という意欲的な目標がありますので、私達はこの高い目標に向かってチャレンジしてゆくべきだと思います。

財団の第二世紀はポリオを撲滅し、ロータリー平和フェロシッププログラムを充実させ、6つの重点分野でロータリーが実績を上げる世紀としなければなりません。

新地区補助金の要約

1. 地区は年に1度、DDF（地区財団活動資金）の50%までを新地区補助金として申請することができます。用途は地区の裁量に委ねられます。
2. 1年以内の比較的短期の活動に資金を配分するよう奨励されています。人道的プロジェクトにも教育的プロジェクトにも国内・海外、RCの有無、試験地区・非試験地区のいずれにも使用することができます。
3. 新地区補助金の申請書を提出する「計画年度」と補助金が支給されプロジェクトが実施される「実施年度」の2年の業務サイクルが奨励されます。既に完了済み或いは進行中のプロジェクトに使用することはできません。

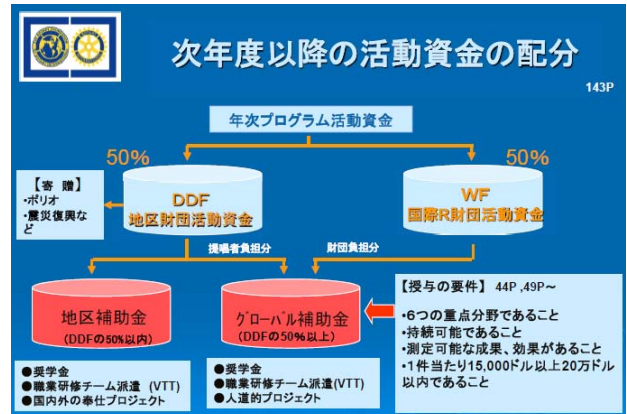
奉仕プロジェクト (Service Projects)

地元や海外のプロジェクトの支援、ボランティア奉仕のための渡航費、災害救援などに使用できます。

奨学金 (Scholarships)

レベル（大学、大学院）、期間、専攻分野に関する制約はありません。国内の大学を対象とするかどうか、あるいは奨学金の授与額は地区の裁量です。

未来の夢計画制度では指定校制度はありません。奨学生は自分の希望する大学で研究することができます。また、カウンセラーについては、ロータリー財団の制度上としてはなくなりましたので、地区あるいはクラブ同士



で要請することになります。

職業研修チーム (Vocational Trainig Teams)

海外で指導したり、研修を受けたりする職業研修チームを派遣します。地元における職業研修も可です。参加者の資格要件、職業研修チームの構成人数、研修期間などは地区が独自に決定できます。

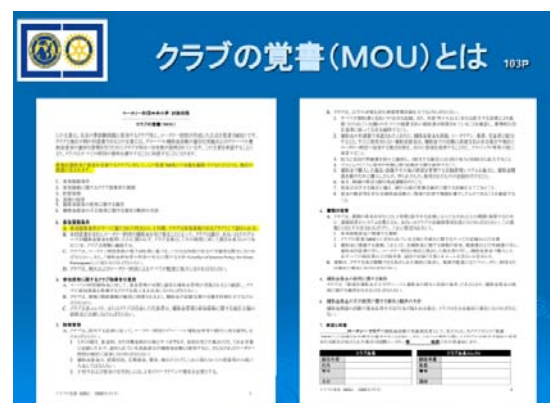
Exchange でなくなったので、派遣だけでも受入れだけでも実施することができます。

現行補助金と新補助金制度の対比

現行補助金と新補助金制度の対比	「地区補助金」	現行地区補助金	新地区補助金
	使 途	- 人道的プロジェクト - 建物の改築修理は不可 - 現金寄附は不可	- 人道的出来、環境、教育プロジェクト - 建物の改築修理に使用可能 - 使途を指定すれば現金もOK
	期 間	1年以内で完結	1年以内で完結
	プロジェクト金額	比較的小規模プロジェクト	比較的小規模プロジェクト
	報 告 書	一括して財団に提出	地区で責任をもって保管管理
「奨学金」	要 件	国際親善奨学金（従来）	R財団奨学金（今後）
	期 間 奨 学 金 分 野 カウンセラー 受 領 資 格 選 考	1学年度 27,000ドル/人 - 特定しない - 受入れカウンセラー制度 - 大学短大2学年終了以上 - 地区が推薦し財団が決定	新地区補助金 1学年度以内（地区で規定） 10,000ドル/人（地区で規定） - 特定しない - カウンセラー制度廃止 - 大学短大2学年終了以上（地区で規定） - 地区で選考決定 グローバル補助金 1年～4学年度 30,000ドル以上/人 6つの重点分野への専攻留学 - カウンセラー制度廃止 - 大学卒業以上 - 地区が推薦し財団で決定
「GSE」	要 件	GSE (Group Study Exchange)	VTT (Vocational Training Team)（今後）
	目 的 メンバー要件 人 数 期 間 補 助 金 額	- 若き職業人を異文化に触れさせ両国の相互理解と友好関係を築く 25～40歳の職業人 4名+ロータリアン1名 - 約1ヶ月 - 旅費をDDF(5,000ドル)とWFで全額負担する	新地区補助金 - 自分の職業の専門性探求と文化交流・親善を目的とする 3名以上の職業人（地区で規定） - 期間に制限なし（地区で規定） - 補助金額に制約なし（地区で規定） グローバル補助金 - 自分の職業の専門性探求と現地指導を目的とする - 重点6分野において2年以上の職務経験 3名+ロータリアン1名(4～6名位) - 期間に制約なし（概ね2週間前後） 30,000ドル/件以上 (DDF+WF)
「マッチング・グラント」	要 件	マッチング・グラント	グローバル補助金
	目 的 補 助 金 額 資 金 調 達 申 請 期 間 報 告 書	2か国以上のロータリークラブあるいは地区が協力して人道的プロジェクトを実施する 5,000ドル～25,000ドル(通常) - DDF:WF 1:1の補助 現金:WF 1:0.5の補助 - 毎年度7月1日～3月31日 12ヶ月毎に中間報告書提出 完了後2ヶ月以内に最終報告書	2か国以上のロータリークラブあるいは地区が協力して6つの重点分野に関するプロジェクトを実施する 15,000ドル～200,000ドル - DDF:WF 1:1の補助 現金:WF 1:0.5の補助 1年中いつでも 12ヶ月毎に中間報告書提出 完了後2ヶ月以内に最終報告書

今後の移行スケジュール

鈴木年度	従来年度	第1回地区財団セミナー（8月） 地区の参加資格認定手続き（10月～） ロータリー財団月間（11月） 第2回地区財団セミナー（2月） クラブの参加資格覚書提出（2月）
山崎年度	全面参加年度	7/1 新しい補助金制度への全面参加（7月）



*近隣RC例会変更のお知らせ

● 燕 RC	12月20日(木)	⇒19日(水) クリスマス家族会
● 加茂RC	20日(木)	家族忘年会
● 吉田RC	21日(金)	忘年会

記帳場所

燕三条ワシントンホテル
加茂産業会館2F
山岸会計事務所



1978年6月4日於：三条厚生福祉会

